

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°46 ドメーヌ・モス

生産地方：ロワール

新着ワイン4種類♪

VdF シュナン 2017 (白)

元は AC アンジュ白！前年は AOC の申請がたまたま遅れて AC アンジュが名乗れなかったが、それに対するお客さんの反応が全くネガティブではなかったことから、そのまま VdF シュナンで継続することに決めた！2017 年は 2 年連続霜の被害に遭い収量は例年の半分だった…。夏の猛暑の影響で酵母に勢いがなかったせいか発酵期間が長く、少し残糖があるが、出来上がったワインはアルコールと味のバランスが良く、いつもよりもエレガントに仕上がっている！香りだけだとマンゴーやパイナップルなど太陽たっぷりの南国フルーツのアロマが華やかで、ボリューム豊かなワインを想像してしまうが、実際の味はスレンダーで清涼感があり、上品なフィネスを感じるワインに仕上がっているところが面白い！

※マグナムサイズもございます

VdF ル・ルシュフェール 2017 (白)

2017 年は、2016 年同様に霜の被害に遭った年。収量が少なかったことと夏の猛暑によりブドウの成熟が早まり、収穫は 9 月 19 日と例年よりも 2 週間ほど早かった。残糖が 4.2g/L とブドウのポテンシャルに対し酵母の勢いが追いつかなかったことから、彼らが基準としている残糖 2g/L 以下という完全辛口発酵まで至らなかった。ワインは、ボリューム豊かで力強く、残糖を感じさせないしよっぱいくらいの旨味、そしてエッジの効いた鉱物感が長く余韻にまで続く！シルヴェストル曰く、2017 年は鉄分を多く含んだ赤土から来るル・ルシュフェール特有の厚みあるシュナンがうまく表現された当たり年とのこと！

VdF レ・ボンヌ・ブランシュ 2017 (白)

2017 年は、2016 年同様に霜の被害に遭った年。また、酵母に勢いがなく発酵に苦労した年でもあった。仕込むワイン自体が少なかったこともあり、今回は実験的にわざと熟成時にウイヤーージュせず、少し酸化的に仕上げている！彼らは 2017 年、レ・ボンヌ・ブランシュの畑にサヴァニャンを植樹していて、将来的にサヴァニャンの酸化スタイルがレ・ボンヌ・ブランシュのテロワールによってどのような姿を見せるのかを見極めるためにトライしたそうだ！ただ実際のワインは酸化の風味はそれほど強くなく、その控えめな塩梅がワインの味に深みと複雑性を与えている！力強く洗練されたスタイルが、父ルネのスタイルを髣髴とさせる！残糖が 4g/L あるため、少しきつめのフィルターをかけ再発酵のリスクを抑えている。

VdF カベルネフラン 2016 (赤)

2016 年から AOC の申請を止め、ワイン名をアンジュ赤からカベルネフランに変えた！2016 年は遅霜とミルデューの影響で収量が 80% 減と少なく、マセラシオンに使った 40hL フードルを満たすために 1/3 フェイ・ダンジュのビオの栽培者からブドウを買っている。前年は熟成にフードルを使ったが、今回は 228L の古樽のみを使用。出来上がったワインは、まだ若いタンニンアフターを感じるが、酒質そのものはとても柔らかく、果実味は染み入るようにしなやか！今飲むのであれば、鴨など血を感じる料理との相性が良さそう！だが、シルヴェストル自身は、できればタンニンがこなれるまであと数年瓶で寝かせることをおすすめとのこと！

ミレジム情報 当主「ジョゼフ&シルヴェストル」のコメント

2016 年は、ドメーヌ始まって以来最も厳しい年だった。冬は暖冬で零下になることもなく 3 月の終わりにはすでにブドウの芽が出始めていた。その後雨も降りブドウの新梢の伸びは勢いを増したが、4 月 8 日に最初

の霜が下り3割のブドウに被害、そして4月18日に2回目の霜、さらに4月25日から4日間寒波が下り、最初に出た芽はほぼ90%が被害に遭った…。その後も雨が多く気温の上らない天気が続き、副芽に襲い掛かるミルデューの猛威が心配された。だが、6月の終わりになると天候は一転、雨の降らない猛暑と日照りが8月の終わりまで続いた。この乾燥した天候によりミルデューの猛威は収まったが、今度は水不足によりブドウの成長にブレーキがかかり始めた。9月に入り猛暑は収まったが、水不足は収穫終わりまで続いた。最終的に収量は例年の7~9割減。普段は収穫に3週間~1ヶ月要するのだが、この年は9日で全ての収穫を終えた。

2017年は、2016年同様春の遅霜に見舞われた年。冬は暖冬で春の芽吹きは早かった。4月末に遅霜。5月は湿気が高く一時的にミルデューが蔓延したが、5月終わりから天気が回復したため大きな被害とはならなかった。開花は順調。夏は猛暑で乾燥していたが、春に降った雨の貯蓄があり日照りは免れた。収穫日は例年よりも1~2週間早い。猛暑の影響で酵母の数が少なかったのか、醸造面では発酵に苦労した。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① Clos des Huerdes VdF シュナンの畑

これは Beaulieu sur Layon にある Clos des Huerdes というシュナンの畑の写真。(写真①) VdF Chenin の畑で面積は5haあり、ルネモスの持つ区画の中で一番広い。私が訪問した時、ちょうどジョゼフとシルヴェストルは芽掻きの作業を行っていた。2019年は4月中旬と5月初めに霜が降り、畑全体の約3割が被害に遭った。幸いこのシュナンの畑はほとんど霜の被害はなかったが、それでも寒さによる多少のダメージは免れなかった。急激な寒さの影響で、ブドウの房の数が例年よりも少なく、また、芽の伸びがまちまちなため成長の足並みが全くそろっていない…。

本来であれば5月の終わりは、写真のようにシルヴェストルの腰のあたりまで枝が伸びているはずが、実際はこのように芽が出始めたかのようなブドウの樹が畑の奥の方に行けば行くほど多く見られた。(写真②) シルヴェストル曰く、極端な寒さと暑さが交互に続くと、成長の足並みがそろわないだけでなく、ブドウの実を付けない余計な芽が樹のあらゆるところから飛び出してくるため、芽掻きの作業が大変になるのだそうだ。また、新梢の長さがそろわないため、枝の誘引作業は何度も行わなければならない、地味に時間のかかる作業が増えてしまうとのこと。



写真② 寒さのダメージを受け成長が遅れた樹



写真③ ウッドベースを余興で弾くルネ

現在、芽掻きの作業は彼ら2人とアニエス、そして季節労働者2人の5で行っている。ルネは？と言うと、一度大病を患ったので、ドメヌを息子たちに譲り現役を引退し自宅にて静かに療養中と思いきや、料理や音楽など趣味人として結構アクティブに動き回っているようだ。ちなみに、これは今年の2月初めに撮ったルネの写真。(写真③) 食事後に余興で軽くウッドベースを弾いてくれた♪さすがジャズマン！ウッドベースが良く似合う！

来年の2月にモスのファミリーが来日する予定だが、残念ながらルネだけは来られない…。やはり体調の問題なのかと思いきや、実は意外な理由によるものだった。何と彼はフランスから見て東に位置する国への飛行機旅行は、地球の自転と時差の関係で体調を崩しやすいため、どうも極度の苦手意識があるようだ。日本が好きで元気がうちに是非日本で

おもてなしをしたいと思っていたので本当に残念だ…。(2019.2.1.&5.31 ドメーヌ突撃訪問より)